

矢作川流域圏懇談会 山部会 WG

平成 28 年度の活動
(第 6 回全体会議資料より)

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく
社会背景の変遷と
望ましい将来像

STEP1

過去と現在を
知る

理解と情報共有を
促進する

- 右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る
- 市民企画会議
- 勉強会などで対応

STEP2

未来像実現に向けた
課題と解決手法を
考える

- 情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討
- 市民会議
- 地域部会で対応

STEP3

できることから
活動を
実践する

人と山村



- 自給的経済、自立、自治、誇りがあった。
- 百業をやっていた。
- 若者が中下流の都市へ流出した。
- 孤本造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がいなくなった。
- 山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。
- 現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。
- 限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村独自の自治や経済的な自立が困難となり、コミュニティが崩壊する。
- 国、県、市町村ごと、都局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。
- 流域圏にとっって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくとも安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。
- 自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。

森林

- 薪炭林施業が行われていた。
- 最上流域や窪田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。
- 藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
- もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、孤本造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。
- 国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなかった。
- もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。
- 管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。
- 林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再造林の放棄が起こり、森林の水土保全機能が喪失する。
- 不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
- 流域圏にとっって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理の下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらしてくれる森林。
- 木材生産を主目的として管理する森林と、水土保全機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生(担い手作り)から！

当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)

- 現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。
 - 既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定や矢作川流域山村ミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。
 - 上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興（流域フェアトレード）の推進（中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など）
- 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

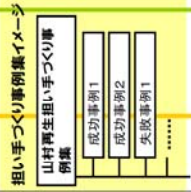


当面の課題2 何をやるか(森の問題)

- 流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。
 - データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。
 - 「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定
 - モデル林の設定とモニタリング
 - ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。
- 行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定
- 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。



山村再生のために
先ず「人づくり」が必要
そのうえで「森づくり」にも
取り組む必要がある。



1. 山部会 平成 28 年度の活動成果 まとめ

山村再生担い手づくり事例集

【①進捗】

- ・「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクトとして、平成 25 年度にヒアリングを行った 21 団体を再訪し、レポート集を作成した。

【②進捗】

- ・山村再生担い手づくり事例集の交流会を平成 29 年 4 月 15 日（土）～16 日（日）に根羽村で実施することになった。

【③進捗】

- ・事例集交流会に参加するメンバーの募集と具体的な交流方法について検討を行った。

【④進捗】

- ・山村ミーティングや木づかいガイドラインとの連携を検討した（例えば、交流会で 9 月に行う矢作川感謝祭への参加を呼び掛けるなど）。



事例集に関する話し合いの様子



取材の様子

山村ミーティング

【①進捗】

- ・流域の森林組合の現状を把握するため、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の作業班を中心とした 100 人ヒアリングを開始した。

【②進捗】

- ・矢作川感謝祭（仮称）については、秋の流域全体の恒例行事化にむけて実行委員会を立ち上げ、意見交換が開始された。

【③進捗】

- ・足助もみじ市まつりに代わるイベントの開催については、懇談会メンバーも主催者に加わるよう関係団体（豊田森林組合など）に働きかけた。



山村ミーティングに関する意見交換の様子



平成 28 年度の矢作川感謝祭の様子

森づくりガイドライン

【①進捗】

- ・ 豊田市の森づくり構想（4事業：森づくり構想リニューアルプロジェクト、森林GIS管理費、モニタリング調査費、水源かん養機能モニタリング調査費）に関する意見交換を行った。



森づくりに関する意見交換の様子

【②進捗】

- ・ 国の水循環基本法（H26.7.1施行）に関して、先進的な流域マネジメントに関するモデル調査実施団体として、内閣官房から選定された岡崎市の取組みについて、情報共有と意見交換を行った。



フィールドワークの状況

【③進捗】

- ・ 森づくりガイドラインの策定に向けて、主な項目に関する情報共有と意見交換を行った。

【④進捗】

- ・ 矢作川流域圏における 2005 年度以降の間伐面積の推移について情報共有を行い、各地域の実状について意見交換を行った。

【⑤進捗】

- ・ 森づくりに関するフィールドワークを行った（例えば、根羽村小戸名地区の災害現場、神奈川県山北町の森づくり事例）。



木づかいに関する意見交換の様子

木づかいガイドライン

【①進捗】

- ・ 木づかいガイドライン策定に向けて、「さあ~しよう」という提案型の原稿作成のための依頼書について、情報共有を行った。

【②進捗】

- ・ 根羽村森林組合では、木づかいに関するイベントを年間30箇所以上開催した。特に、7月16日に恵那市で開催された「奥矢作森林フェスティバル」では、東幡豆漁協とともに矢作川流域圏懇談会をPRすることができた。



奥矢作森林フェスティバルの実施状況

【③進捗】

- ・ 全体会議（2月24日）では、参加者に「流域ものさし」を配布し、目的と効果を周知する（例えば、私の流域物語など）。



流域ものさし（試作品）

2. 各テーマの進捗状況

2.1 山村再生担い手づくり事例集

(1) 今年度の活動より分かったこと

《『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』の実施》

- ・山村再生担い手づくり事例集の作成に携わった3ヶ年の全取材者、取材先を対象にメーリングリストを開設した。
- ・平成25年度に事例集づくりのために訪問した21団体を再訪し、取材を行い、レポートを作成した。
- ・取材の結果、3年の間に、さまざまな深化（団体自体の成長や伸び悩み、団体同士のつながり、取材者と取材先とのつながり、団体と市民のつながり）を遂げていた。



ねば杉っこ餅の取材風景（根羽村）



奥矢作森林塾の取材風景（根羽村）

《事例集関係者を対象とした交流会の実施》

- ・事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークを広げ、深めることを目標とした「事例集交流会」を開催することになった。

開催日：平成29年4月15日（土）～16日（日）

開催場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」※宿泊はグリーンハウス森沢

対象：事例集作成のために取材を受けた64団体と取材者

内容：各団体のPR（岡森フォレストーズのライブ、天下杉の上演会など）

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○H25～H27までの3ヶ年の成果をホームページに掲載するとともに、PR力のある山村再生担い手づくり事例集とする。これまでに、取材で構築された人間関係を活用したイベントの開催を計画する

《進捗状況》

- ・事例集をホームページにアップするとともに、「奥矢作森林フェスティバル」などのイベントの際に、事例集を自由に閲覧できるよう、市民の目の届く場所に置いた。
- ・事例集交流会を次年度の初めに実施することになった。

○イベントの実施（山村ミーティング、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携）

《進捗状況》

- ・事例集の作成で培った人間関係を活用し、矢作川感謝祭への参加の呼びかけや木づかいガイドラインに関する原稿作成の依頼を検討した。

(3) 今後の課題

- ホームページを活用したPR力のある山村再生担い手づくり事例集とする。
- 他のテーマ（山村ミーティングや木づかいガイドライン）との連携を深める。

2.2 山村ミーティング

(1) 今年度の活動より分かったこと

《森林組合作業班へのヒアリングの開始》

- ・根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の作業班を中心とした100人ヒアリングを開始した。
- ・森林組合へのヒアリングの結果、現在の作業班を取り巻く3つのミスマッチが明らかになった。

- ①人間関係（班長と班員の関係）のミスマッチ
- ②仕事内容（希望する作業内容）のミスマッチ
- ③待遇（給与や装備品の充実）のミスマッチ

《矢作川感謝祭の実行委員会への参加》

- ・矢作川感謝祭は、これまで川のメンバーを中心に行われてきたが、次回からは山のメンバーも共催として加わることになった。1月以降は、月1回のペースで実行委員会が開催されることになった。



ヒアリング時の作業風景（恵那市）



豊田市森林組合との意見交換（豊田市）

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○新たなイベントの計画、試行

《進捗状況》

- ・これまで川の関係者が主催者となって行われてきた「矢作川感謝祭」に山のメンバーも実行委員として参加することになった。
- ・足助もみじまつりに代わるイベントの開催については、懇談会メンバーも主催者に加わるよう関係団体（豊田森林組合など）に働きかけた。

○イベントの実施（山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携）

《進捗状況》

- ・矢作川感謝祭への参加を促すため、山村再生担い手づくり事例集の交流会でのPRなど、イベント実施に向けた意見交換を行った。

(3) 今後の課題

- 森林組合作業班へのヒアリングを進め、得られた課題について周知する。
- 新たなイベントを計画し、実行する。
- 山村再生担い手づくり事例集、木づかいガイドライン等、他のテーマと連携したイベントを実施する。

2.3 森づくりガイドライン

(1) 今年度の活動より分かったこと

《行政の森づくりに対する取組みの周知》

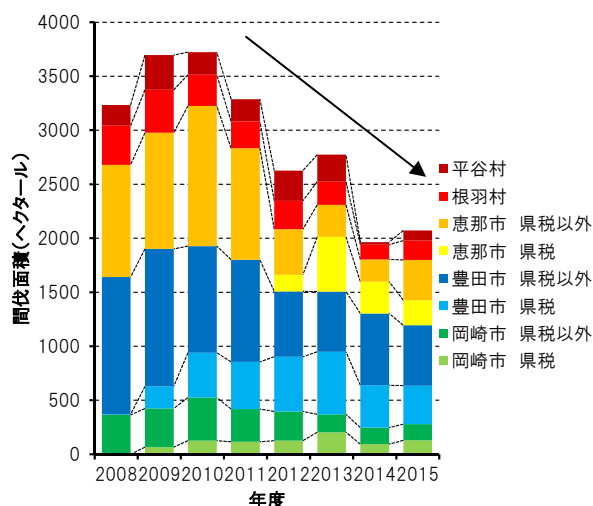
- ・国の水循環基本法（H26.7.1 施行）に関して、先進事例である岡崎市の取組みを情報共有した。岡崎市水循環協議会緑のダム部会の会議では、委員より間伐と皆伐に関するさまざまな意見が挙げられていることがわかった。
- ・国の水循環施策では、国、地方公共団体（都道府県、市町村、特別区）への情報提供の呼びかけや流域マネジメントに関するモデル実施団体の募集があり、岡崎市が選定されたことが報告された。流域圏懇談会としても情報共有していく必要があることが周知された。
- ・豊田市の森づくり構想（4事業：森づくり構想リニューアルプロジェクト、森林GIS管理費、モニタリング調査費、水源かん養機能モニタリング調査費）が紹介された。また、豊田市では、森づくりに関する海外視察が行われており、ドイツとスイスの森林管理の仕組みを学んだ。特に人材育成については、公のバックアップと我が国の旧教育体制の見直しも考える必要があることがわかった。
- ・流域市村の間伐面積の推移では、減少傾向に歯止めがかからない状況であることがわかった。



岡崎市の報告の様子（岡崎市）



豊田市の海外視察の報告（豊田市）



矢作川流域市村における近年の間伐面積の推移

《森づくりガイドライン策定に向けた項目案の提示と意見交換》

- ・2018年度に始動する豊田市での中核製材工場、2016～2017年度に行われる豊田市森づくり構想の見直し、2016年度に完了する岡崎市水循環協議会ダム部会の答申という背景のもと、以下に示すガイドラインの項目案が示された。

〔ガイドラインに盛り込む項目案〕

1. 矢作川流域の森づくりについての基本的な考え方
(木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など)
2. 皆伐一斉造林についての考え方(風化花崗岩地帯では、10～20年後に崩壊のリスク増大、搬出方法(架線系・道路系)、ニホンジカ食害リスク)
3. 搬出間伐についての考え方(間伐率、搬出方法(架線系・道路系))
4. 伐り置き間伐についての考え方(置き方など)
5. 溪流沿いの人工林についての考え方(流木リスク軽減のための樹木除去など)
6. 尾根筋の人工林についての考え方(針広混交林化など)
7. 広葉樹二次林についての考え方
8. その他

《森づくりに係わるフィールドワークの実施》

・フィールドワークを行い、矢作川流域の災害の履歴と災害を回避する森づくりを学んだ。

- ① 明治用水水源かん養保安林（根羽村） ② 小戸名地区の恵南豪雨における沢抜け箇所（根羽村）
③ 足助きこり塾の森づくりと活用（豊田市） ④ 神奈川県山北町の水源環境保全の実態（山北町）



小戸名地区の沢抜け箇所の視察状況（根羽村）



足助きこり塾の視察状況（豊田市）

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○ 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WG として把握し、情報共有と意見交換を行う。

《進捗状況》

・ 岡崎市における水循環施策の動き、豊田市における森づくり構想の見直しについて、最新事例を共有するとともに、意見交換を行った。

○ 岡崎市と豊田市で共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる。

《進捗状況》

・ 流域市村の動向を把握したうえで、森づくりガイドラインに盛り込む項目案を周知し、意見交換を行った。

(3) 今後の課題

- 森づくりに関する行政や民間の動きをとらえ、矢作川流域圏懇談会としての意見を発信する。
- 水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりを背景に、森づくりガイドラインを作成していく。

2.4 木づかいガイドライン

(1) 今年度の活動成果

《木づかいガイドライン策定に向けた活動の情報共有》

- ・「さあ~しよう」といった提案型の原稿作成の依頼文について、依頼書案の周知と意見交換を行った。
- ・原稿作成にあたっては市民編、市町村編、業界編、研究者編の4つがあげられ、市民編においては、山村再生担い手づくり事例集の取材先に協力を得るなどの意見交換を行った。

《木づかいの推進に関する実績と提案》

- ・木づかいの推進については、根羽村森林組合が「木づかいライブ・スギダラキャラバン」として活動を行っており、年間 30 箇所以上（流域内外）の地域に出前授業を行った。
- ・矢作川流域圏懇談会として、奥矢作森林フェスティバルに参加した。木のアイテムや木エペンダント作りでは、市民（親子）より好評を得た。
- ・矢作川流域圏第 6 回全体会議において、「流域ものさし」を配布し、目的と今後の活用方法の推進を行う。

《木づかいに係わるフィールドワークの実施》

- ・フィールドワークを行うことで、木づかいに関する最新事例や市民のニーズを学んだ。

①ウッドデザインパーク（岡崎市） ②間伐材利用コンクール会場（岡崎市）



ウッドデザインパークの見学風景（岡崎市）



間伐材利用コンクール会場の様子（岡崎）

【木づかいガイドラインの意図するところ】

- ①市民、行政、業界、研究機関の各関係者と有志が流域内の「木づかい推進」に一体感・共感・共通認識を持って取り組むこと
- ②現在流域内の各地で行われている様々な立場の方の魅力的で楽しい「木づかい」の取組みを「見える化」すること
- ③「見える化」された木づかい推進活動の有志の方々と「人の輪」をつくること「繋ぐ」ことがとても大切で、ここに流域で取り組む市民活動化の意義がある
- ④その「人の輪」による様々な化学反応により、流域内の各地で市民に「木づかい」に対する魅力や楽しさを伝え、共感と活動を呼び起こすこと
- ⑤木づかい提案者ひとり一人の培ってきた森や木に対する経験値を重視し、提案者とその受け手がチームとなって、木づかいの主役と立役者のコンビで木の魅力を発信していくこと
- ⑥山村再生担い手づくり事例集にあるような様々な地域の様々な山村・里山活動家が「木づかい推進」というテーマで「繋がり」、それぞれが主役になって「木づかいネット網」として連携し、すべての年代層を対象にした「木づかい」の原体験を与えること
- ⑦「木づかいガイドライン」を手にとると、すぐに行動したくなるような「さあ~しよう」という市民目線に沿った提案とすること
- ⑧日本人として木の文化を身近なものにすること

木づかいガイドラインの意図するところ



いなかとまちの文化祭における木づかい推進（豊田市）



集客力のある木のアイテム（豊田市）

(2) 今年度の活動方針に対する進捗状況

【活動方針】

○木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動を継続するとともに、実績を整理する。

《進捗状況》

・根羽村森林組合がまとめ役となって、活動を継続しながら情報収集を進めている。流域圏懇談会としては、奥矢作森林フェスティバルに参加した。木のアイテムや木工キーホルダー作りにおいては、イベントの終了時刻となっても親子の歓声が絶えなかった。木づかいの推進に対して、市民のニーズが高いことがわかった。

○木づかいを推進した安城市、豊田市、岡崎市、恵那市等の実績をパッケージ化（＝矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインの作成）する。

《進捗状況》

・今年度も引き続き実績を重ねている。中下流・海の人々のニーズをふまえ、ガイドライン作成の内容を構築する。

(3) 今後の取組

- ・根羽村森林組合がまとめ役となって、木づかいを推進する。その中で、分担可能な項目については、流域圏懇談会で進めていく。
- ・木づかいガイドラインについては、山村再生担い手づくり事例集や山村ミーティングなどのイベントを活用して原稿の依頼を行っていく。
- ・全体会議で紹介された「流域ものさし」については、流域連携の一つのアイテムとして活用していく。

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol. 1



発行日：平成 28 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 32 回山部会WGを開催しました！

5月27日(金)～28日(土)に第32回山部会WGが上矢作コミュニティセンターにて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、今年度の目標を話し合いました。

日時：平成 28 年 5 月 27 日（金）～28 日（土）
場所：上矢作コミュニティセンター会議室
参加者：17 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体の取材を行い、とりまとめを行ったものです。

新年度にあたり、本活動から得られた効果の検証を行うとともに、事例集の活用と今後の活動について意見交換をします。

これまでに刊行された山村再生担い手づくり事例集 I, II, III



2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、今年度の活動について、以下の 2 つを提案します。
一つ目は、「流域に関わるお祭りの実施」です。山では昨年「もみじまつり」が終わりました。川では昨年「矢作川・川会議」、「矢作川学校」ともに見直しの時期に入っています。そこで、山と川の接点となる河原で流域祭をやってみたいと考えています。
二つ目は、流域すべての森林組合の作業班を対象にヒアリングを行います。流域の山づくりを支える人々が、何を原動力に汗を流しているのか、何が足りなくて力が発揮できないのかを明確にし、流域の問題を解決に導きたいと考えています。
皆様のご意見をお聞かせ下さい。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、大きく 3 つの項目について情報交換・意見交換を行います。

①流域市村の間伐面積の推移

流域市村の林業の動向を把握するため、関係団体への情報収集を継続します。

②矢作川流域の特徴的な森林と巨木・並木の選定

流域圏懇談会として、推薦したい流域内の森林を外部に発信していきます。

③流域自治体の森づくりに関する動向の把握と意見発信

流域圏懇談会として豊田市、岡崎市の取り組みを把握し、意見交換を行うとともに、より望ましいと考えられる意見を発信します。



4. 恵那市・根羽村におけるフィールドワーク



フィールドワークとして、以下の 3 箇所の視察を行いました。

- ①達原溪谷「喉の滝」崩壊箇所（岐阜県恵那市）
- ②上矢作の天然水「福寿の清水」（岐阜県恵那市）
- ③明治用水水源かん養保安林（長野県下伊那郡根羽村）



◆話し合いでの主な意見 (●意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ぬくもりの里に事例集を持参した際に、所長から「事例集を活用して地元の大学や地域の人たちを巻き込んだ活動がしたい。」という意見をいただいた。この活動に参加した甲斐があったと嬉しく思った。(松井)
▶それは事例集の最も望むべき活用方法だと思う。(洲崎)
- ・離島や山間部など、外部との交流が難しい地域においては、活動で築いた人間関係が切れやすい。(高橋)
▶年に1回程度交流の場として事例集ミーティングを開催できるといい。(洲崎)
▶懇談会通信を定期的を送ってはどうか。(松井)
- ・取材した団体にアンケートを行って、集めた情報を発信するシステムを作ってはどうか。(高橋)
▶事例集通信のようなものを年間1~2回作成して、ホームページで閲覧できるようにする。ネットがみられない環境の団体には発送してはどうか。(洲崎)
▶矢作川流域圏懇談会通信に1ページ追加して、事例集「取材先のその後」を掲載してもいいと思う。(丹羽)
- ・先ずはこれまでの結果をホームページに公開し、外部への発信を急ぎたい。本日は、とても建設的な意見交換ができたと思うので、まとめて次回の懇談会に活かそうと思う。(洲崎)

●山村ミーティングについて

- ・川部会の関係者にも声を掛けたら、「最初は小規模でいいから動き出しましょう」との返事をいただいた。今年は矢作川流域の「流域祭」を始動させ、ヒアリングによる人間関係が拡大できたらと思う。(丹羽)
▶それはヒアリングをすることで、人と人が繋がるという解釈で良いのか。(洲崎)
▶その通り！いつもの考え方だ。(丹羽)
- ・山に携わる人々が、他地域から移り住んで、どんな苦労をしているのか。何をモチベーションとして頑張っているのかを共有できれば素晴らしいと思う。(小林)
- ・スイスのフォレスターによる研修会が先日行われたが、豊田市森林組合の前向きな姿勢に驚いた。それは、今後の林業に対して危機感をもつようになったからだと思う。その動きについても、ヒアリングを通して、地域の森林組合が持つ悩みなどを明らかにしたい。(丹羽)
- ・川に関しては、矢作川水族館のメンバーが山関係の人との連携によるイベント実施を考えている。うまく合流できる部分があれば、皆が一つになって力を注げるといいと思う。(洲崎)
- ・山に関しては、矢森協、木の駅、森林組合、ボランティア、奥矢作森林塾と様々な団体があるため、本格的な実行には時間がかかるかも知れない。今年は、構築した人間関係を活かし、実際の行動に移す年としたい。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・補助金が削減される中で、搬出間伐はより厳しいものになっている。(土屋)
- ・豊田市の中核製材工場の稼働というニュースは、岐阜県恵那地域における木材生産に影響を与えるのか。(蔵治)
▶恵那管内の製材工場は、スギが主であり、ヒノキの産地である恵南地域には不利であった。ところが、今後稼働する中核製材工場はヒノキが主であることに加え、搬出可能な距離であるため、大いに期待している。(土屋)
- ・補助金が減っている中で、木材生産を上げるには、皆伐をして売るという手もあるが、可能性はあるか。(蔵治)
▶岐阜県全体の傾向は、主伐後に植栽をしないため、若い山がほとんどないのが現状だ。しかも、近年はシカの食害も加わった。そんな中、林業生産エリアと天然更新するエリアに分けるゾーニングを行っている。特に天然更新については、ササ原に移行し、本来の植生遷移が進まないという課題があるが、今後の活路であるため真剣に検討を進めたいと思う。(土屋)
- ・奥矢作森林塾では、今年度から予算をとって、木材資源の調査を進めている。(原田)
▶GISを購入して、串原地域を一元的に管理したいと考えている。現在は、地域の中にどんな木材資源がどのように分布しているかを調べる段階である。(小林)
- ・串原地区は、ダム建設による離村のため、地籍調査が進んでいないのが現状だ。手つかずの林地も多く、大きな課題となっている。(大島)
▶矢作ダム管理所の仕事として位置付けていただきたい。(蔵治)
▶恵南豪雨の際の大量の流木も、放置された山に原因があると思う。しっかり認識したい。(大森)
- ・流域の森に関して生産性、生態系、防災、水資源、景観など、どこにどういう森があることが望ましいのか、一度整理できると思う。理想像を追及するのは流域圏懇談会にしかできないことだと思う。(洲崎)

今後のスケジュール (予定)



次回の山部会 WG は、6月17日(金) 豊田市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.2



発行日：平成 28 年 7 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 33 回山部会WGを開催しました！

6月17日(金)に第33回山部会WGが豊田市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインに関する今後の活動方針を話し合いました。

日時：平成 28 年 6 月 17 日（金）
場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室
参加者：15 名（事務局む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を行い、とりまとめたものです。今年度は、先月の意見交換を受けて「山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト」を立ち上げます。

【目的】事例集づくりで築き上げた人間関係を維持し、得られた情報のネットワーク化を進め、取材者と取材先、流域圏懇談会相互の交流を促進する。

【内容】事例集作成のために訪れた取材先を再訪し、取材後にどんな変化があったかを聞く。今年度は平成 25 年度に行った「事例集Ⅰ」の取材先を訪問する。

【その他】取材先には、その市村でWGを開催する際に参加を呼びかける。



2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、前月提案した以下の活動を考えています。

①流域に関わるお祭りの実施に向けて

- ・矢森協の中では提案済であるが、今年は川部会のメンバーと一緒にやる。
- ・今年度は小規模でもいいから、イベントを始める。

②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

- ・ミーティングをする前に、人間関係を築くためのヒアリングを行う。
- ・根羽、恵那（恵南）、豊田（稲武、旭、小原・藤岡、足助・下山）、岡崎を対象とする。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、大きく 3 つの項目について現状報告・意見交換を行います。

①森づくりガイドライン作成上の考え方

木づかい、木質バイオマスとともに流域に不可欠な森林施策について示す。

②平成 28 年度 豊田市森林課主要事業と予算

継続事業は「森づくり構想(4 事業)」であり、新規事業は「中核製材用地整備費」となっている。

③矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

今年度も流域の関係団体に情報提供を依頼して、流域圏の現状を把握する。



4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、昨年度の活動総括と今年度の活動方針を報告します。

①平成 27 年度の活動総括

- ・木づかいライブ・スギダラキャラバンを通して、「木のある暮らし」を広く市民に提案した。
- ・山部会としては、「木づかいガイドライン作成の取組整理表」を作成した。

②平成 28 年度の活動方針

- ・平成 26 年度に作成した提案型「さあ~しよう」の原案を基本に、提案者に原稿を依頼する。
- ・木づかいライブ・スギダラキャラバンを展開し、森や木づかいのファンを増やしていく。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ ホームページにおける取材先の掲載方法は、職種別と地域別の両方があるとわかりやすい。また、今回の取材者は事例集Ⅰの実施者を対象としているが、新たな懇談会メンバーも同行できる仕組みをお願いしたい。(浅田)
 - ▶ 取材先の掲載方法は、トップページで取材先が表示された地図が示され、選択により取材先の詳細にジャンプできるようにしている。取材者については、事例集Ⅱ、Ⅲの取材者に対しても声を掛けるようにしたい。(洲崎)
- ・ 成果をイメージしやすいように、取材内容のフォーマットを作成したほうが良いのではないか。(蔵治)
 - ▶ 昨年度までの事例集の取材項目・内容に準ずるような、フォーマットを作りたいと思う。(洲崎)
- ・ 取材担当については、この場でリーダーを決めた方がよい。(蔵治)
 - ▶ 今日のところは、あくまで予定としてリーダーを決めたい。(洲崎)
- ・ 今後のスケジュールは、これまでの事例集作成と同様に8月までに取材担当者を決定して、9月～10月に取材を行い、年内に初稿を提出するものになると思う。(洲崎)

取材対象団体 (21 団体)	リーダー (予定)
根羽村森林組合、ねば杉っ子餅、根羽村猟友会	洲崎燈子
恵南森林組合、串原農林	蔵治光一郎
NPO 法人奥矢作森林塾、NPO 法人福寿の里自然倶楽部、(株)M-easy、旭木の駅プロジェクト	浜口美穂
矢作川水系森林ボランティア協議会、green maman、農業生産法人 みどりの里	蜂須賀功
とよた森林学校、とよた森林学校 OB 会、とよた都市農村交流ネットワーク、おむすび通貨 (一社) 物々交換局	沖草江
豊森なりわい塾、千年持続学校	丹羽健司
NPO 法人 中部猟誦会・三州マタギ屋、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会	井上祥一郎

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・ 私が目指す I ターンミーティングは、既に郡上の水野雅夫氏が行っている。彼のもとには全国から集まった I ターンの人々がいて、色々な議論の蓄積があると思う。この地域のヒアリングにあたっては、彼に相談し、勘どころを押えたい。(丹羽)
- ・ 可能であれば、私も森林組合のヒアリングに同席させていただきたい。(蔵治)
 - ▶ 心強く思う。是非よろしくをお願いしたい。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・ 矢作川流域の間伐は、順調なペースと言えるのか。(浅田)
 - ▶ 目標とした間伐面積を比較すると、岡崎市では年間 450ha を目標としているが、2014 年の実績は 246ha と 60%にとどまっている。豊田市でも計画の 60～70%にとどまり、計画に達していない状況である。(蔵治)
- ・ 大規模な製材工場が稼働すれば、木材の生産意欲が高まるため、間伐ではなく皆伐に向かう可能性がある。皆伐は決して悪いことではないが、何らかのガイドラインを作る必要がある。(蔵治)
- ・ 一般論としては、木の成長量だけ伐るという考え方がある。しかし、大径木が増える傾向がある中で、更新伐や次世代の若返りを図るための手法について、ガイドラインで示す必要があると思う。(今村)
- ・ 岐阜県では、計画の間伐量に届かなかったペナルティとして、要望の 6 割くらいの補助金額となっている。(小林)
 - ▶ 我々の南信州地域も同じで、要望の 5 割程度の補助金額となっており、人員整理の話まで出るほどだ。(今村)
- ・ 世界的な流れとして、針広混交林化があるが、流域の状況はどうか。(安藤)
 - ▶ 国も日本の 1000ha のうち、1/3 は天然林に変えていく計画になっている。これは、流域の豊田市や岡崎市でも、同様の計画となっている。(蔵治)
 - ▶ 根羽村では環境林、生産林、集落周辺環境林といったカテゴリーを作り、生産性の低い場所では、針広混交林にするなどのゾーニングを進めている。(今村)
- ・ 懇談会で周知されている近自然森づくりという概念も提案できればいいと思う。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 我々は、いつか流域の小学生が「曲げわっぱ」「木の表札」「流域ものさし」を普通に持ち、それらを介して四万十川とか信濃川流域の小学生と交流できる日がくることを願っている。(今村)
- ・ 今年の木づかいライブ・スギダラキャラバンの予定に 11 月に開催する「いなかとまちの文化祭」を加えてもらいたい。(洲崎)
- ・ 我々は、道具と材料を提供するので、山部会の皆さんには、木づかいの先生になってもらいたい。(今村)
 - ▶ 矢作川流域ものさしづくりワークショップなどは、矢作川研究所の行事にふさわしいと思う。(洲崎)

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会 WG は、7月22日(金)～23日(土) 根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.3



発行日：平成 28 年 8 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 34 回山部会WGを開催しました！

7月22日(金)～23日(土)に第34回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 7 月 22 日 (金)～23 日 (土)
場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」ほか
参加者：15 名 (事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山村再生担い手づくり事例集は、平成 27 年度までの 3 ヶ年に矢作川流域市町村から山村漁村の振興に貢献する 64 団体への取材を通して、とりまとめを行ったものです。

今年度は、“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を以下の目標およびスケジュール案に従って実施します。

【2016 年～2018 年の目標】

事例集の取材対象となった 64 団体は、取材後さまざまな形で進化している。その進化について記録し、共有することで、取材者、取材先、流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化をめざす。

【スケジュール案】

7 月～8 月・・・メーリングリストの開設、取材者の確定、 9 月～11 月・・・取材
12 月～1 月・・・調査者によるレポートの作成～提出、 2 月～3 月・・・山村再生担い手づくり事例集交流会

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

山村ミーティングでは、以下の 2 項目について検討を進めています。

①流域に関わるお祭りの実施に向けて

矢作川感謝祭が 9 月 10 日 (土) に行われる。来年は、実行委員のメンバーとして運営に携わりたい。

②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

約 20 年前に林業雇用改善促進事業の一環で、愛知の森人交流会が行われている。ここでは、現在問題となりつつある、林業新規参入者の採用方法の検討、新規参入時の支援策の検討、現場労働者の資質向上、新たな作業技術の向上、雇用体制の改善、事業体系基盤の強化・合理化が議論されている。各森林組合に対するヒアリングでは、この点を再度確認したい。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインでは、以下の 8 つの項目を柱にしたいと考えています。

- ①矢作川流域圏の森づくりについての基本的な考え方 (木材生産と公益的機能のバランス、森林所有者や市民の責務など)
- ②皆伐一斉造林についての考え方 (風化花崗岩地帯における、10～20 年後の崩壊リスクの増大、木材の搬出方法 (架線系・道路系)、ニホンシカの食害リスク)
- ③搬出間伐についての考え方 (間伐率、搬出方法 (架線系・道路系))
- ④伐り置き間伐についての考え方 (置き方など)
- ⑤溪流沿いの人工林についての考え方 (流木リスク軽減のための樹木除去など)
- ⑥尾根筋の人工林についての考え方 (針広混交林)
- ⑦広葉樹二次林についての考え方
- ⑧その他



4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインでは、以下の 3 つの項目について、意見交換を進めます。

- ①木づかいガイドラインの原稿作成について
- ②木づかいライブ・スギダラキャラバンについて
- ③その他



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・取材先と担当者が決まっているが、私も同行したいと考えている。申し込むにはどのようにしたらよいか。(浅田)
 - ▶ 手順としては、メーリングリストを作るので、そこに登録してほしい。その上で、取材先および取材者同士の日程調整をお願いしたい。(洲崎)
- ・事例集に関する交流会が2月～3月に設定されているが、これは宿泊を伴うものか。(今村)
 - ▶ 他からも要望があり、山の方で宿泊を伴った交流会にしたいと考えている。内容は未定であるが、最低限の活動報告を行い、取材先同士が顔を合わせて、各々の活動が分かるようにしたい。また、取材先の作品や食べ物を持ち寄ったり、意見交換したり有意義なものとしたらいい。(洲崎)
- ・今年度は、2013年の取材先を対象とするようだが、2014年度、2015年度の取材先とは交流しないのか。(浅田)
 - ▶ 取材対象として、来年度は2014年、再来年度は2015年の取材団体を想定しているが、このプロジェクトの周知・進捗状況については、メーリングリストを介して全取材先に発信する予定である。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・村にしても森林組合にしても究極の課題は「定着」してもらえるかどうかにある。どうしたら定着してもらえるかと考える時に、技術とか待遇について共通認識ができれば改善されると思う。(今村)
 - ▶ 横に繋がった会合が、毎月とは言わないが、気楽に行ける駆け込み寺のような存在であると良い。(丹羽)
- ・林野庁としては、流域林業活性化協議会みたいな組織を一応用意しているが、矢作川の場合は県で分断されている。さらに現場レベルでは、うまく機能していないのが現状である。(蔵治)
 - ▶ 火付け役で終わるかもしれないが、その役割を本懇談会が担うことができればと思う。(丹羽)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・市民が抱く皆伐は環境に悪いというイメージを払拭するには、ゾーニング等を行い、次世代に残す森づくりを流域市民にアピールする必要がある。(今村)
- ・森づくりガイドラインは、矢作川流域という広い面積を対象とするため、今一つ策定に対する実感がわかなかった。しかし、この8項目は具体的にわかり、身近なものとなった。(丹羽)
- ・トップダウンのゾーニングするのは行政的には適切なやり方だと思うが、懇談会としては山主側、集水域をより細分化した洞(小流域)ごとのデザインに焦点をあてたいと考えている。(蔵治)
- ・一般論ではなく、矢作川流域は風化花崗岩が多いから、溪流沿いの森づくりはこうするといったガイドラインがあると、洞ごとのデザインはずいぶん楽になると思う。(丹羽)
- ・間伐には補助金が付くが、皆伐には補助金が付かない。森林を守るためには、国策としてある程度お金を投入してもらわないと、林業への定着の基盤となる定住化が揺らぐ可能性がある。(今村)
- ・国有林は林野庁が管理しているとして、民有林はやっぱり県がある程度責任となるべきということか。(浅田)
 - ▶ 法律上はたぶんそうなると思う。ただ、矢作川流域が難しいのは、上下流で管轄する行政が異なること。(土屋)
 - ▶ だから、行政の枠を越えた懇談会の役割は大きいといえる。(浅田)

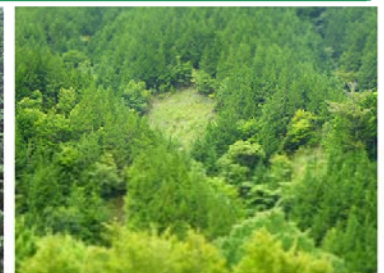
●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ガイドライン原稿作成について、現在進行形と計画段階にあるものは、分けて書くべきか。(丹羽)
 - ▶ 分けても分けなくてもよい。とにかく「さあ~しよう」とは、体験してみて余りに楽しく、人に伝えたくて仕方がないということを文章にってもらうことにある。(今村)
- ・ガイドラインの原稿作成依頼は、市民、県市町村、業界、研究機関に対して事務局より出してほしい。(蔵治)

◆根羽村におけるフィールドワーク

平成12年9月に発生した東海豪雨(恵南豪雨)時に大規模な沢抜けのあった小戸名地区の視察を行いました。沢抜けの要因としては、以下の条件が重なったためです。この結果についても、森づくりガイドラインに反映したいと考えています。

- ①風化花崗岩地帯という流域の特徴を示す場所であった
- ②皆伐後10年以上が経過し、切株の腐朽が進行していた
- ③移植後2年～6年の幼齢林であり、根が未熟であった



沢抜け16年後の状況(左:未だに表土が露出する場所、右:草本群落の回復がみられる場所)

今後のスケジュール(予定)

次の山部会WGは、9月16日(金) 恵那市にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.4



発行日：平成 28 年 10 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 35 回山部会WGを開催しました！

9月16日(金)に第35回山部会WGが恵那市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 9 月 16 日（金）
場所：恵那市串原振興事務所 串原コミュニティセンター 3階会議室
参加者：14名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山部会では、2013年度から2015年度にかけて、持続可能な流域圏につながる活動をしている団体を対象に取材して、「山村再生担い手づくり事例集」を3集発行しました。今年度は、最初の年に取材した21団体を対象に“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を展開することになっています。

①主な取材内容

- ・前回の取材後、どのような変化があったか？ ・前回の取材時の課題は解決したか？
- ・現在の課題は何か？ ・山村再生担い手づくり事例集の活用に関する意見は？

②今後の予定

9月～11月⇒取材、12月⇒レポートの作成・提出、1月⇒完成、3月⇒交流会

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の2項目について、山村ミーティングに関する意見交換を行いました。

①流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

ヒアリングの下準備として、森林・林業プランナーの研修を受けて繋がりを持てるようにしています。また、基礎知識をもう一度確認し、作業班の人たちと共通言語を持てるように勉強しています。その上で、ヒアリングを始めたいと思います。

②流域に関わるお祭りの実施に向けて

「もみじまつり」に代わるお祭りの開催、矢作川感謝祭への主催者側としての参加はできませんでした。引き続き関係者との話し合いを持ちたいと思います。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

以下の3つの項目について、森づくりガイドラインに関する情報共有と意見交換を行いました。

①矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績

⇒2008年以降の流域市村の間伐面積の推移は概ね減少傾向にあります。

②近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理

⇒ヨーロッパでは、森林施業は環境破壊という認識がある。施業に関する環境破壊を防ぐため、推奨される森林管理手法が細かく定められています。

③自主企画「神奈川県山北町の森づくり」の視察提案

⇒水源環境税の活用方法について、山北町の取組みを視察したいと思います。

④今年度の水循環に関する計画とモデル調査実施団体募集のお知らせ

⇒矢作川流域圏懇談会も、近い将来にモデル調査実施団体に応募したいと考えます。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

以下の3つの項目について、木づかいガイドラインに関する意見交換を行いました。

①木づかいガイドラインが意図していること

⇒見える化された木づかい推進活動を通して、関係者全員が「繋がる」ことが最も重要であると考えます。

②木づかいガイドライン作成依頼者について

⇒市民編として、山村再生担い手づくり事例集の取材先に木づかいの推進をしてもらいたいと考えています。

③合同部会における木づかい推進

⇒全懇談会会員で「流域ものさし」を作り、新たな連携のきっかけにしたいと思います。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- 取材団体に木づかい推進の「さあ~しよう」の提案を何か引っ張り出せないかと考えている。(今村)
▶ 事例集のメーリングリストに質問すべき内容の例を投げかけてもらえないか。(洲崎)
- 前回、年度末に事例集交流会を開催することについて、飲み会や宿泊を見据えた金曜日の開催が良いという意見があった。とても良い提案だと考えられるため、日程調整をしたいと思う。(洲崎)
- どんな成果をイメージしているのか。(蔵治)
▶ 簡易製本にするかどうかなど、レポートの状況次第で判断したいと思う。(洲崎)
- レポート自体は、これまでと同じように執筆することか。(蔵治)
▶ あまり形式的なものではなく、ある程度自由度の高いものにしたい。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- 足助の「もみじまつり」は、豊田森林組合主催のイベントだった。今年からは何もなくなってしまうのか。(蔵治)
▶ 何かやりたいという話はある。(丹羽)
- 矢作川感謝祭は、多くの親子が参加しにぎわっていたが、矢作川河畔の広い敷地があるため、いっそうの規模拡大が望める。(高橋)
▶ 今年は、新たな主催者に加え、イベントの内容も大きく変わったため、山の関係者まで手を広げる余裕がなかった。お祭りを経験して、主催者側の手ごたえがあったので、来年は規模拡大を目指しているようだ。(洲崎)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理》

- 大規模な林業を行う場合に、地域の合意を得て、水道水の取水を一時的に停止するというのは驚きだ。(洲崎)
- 愛知県でも奥三河地域の一部集落では、簡易水道の水源を持っていて、そこでの作業は慎重に行っている。(大森)
- 根羽村でもこれらの指標について、〇×でチェックをしてみるのも良いかもしれない。(今村)
▶ そういった情報を是非提供してほしい。(蔵治)

《自主企画「神奈川県山北町の森づくり」の視察提案》

- 神奈川県在住の坂井マズミさんは、水源環境税がきちんと使われているかを厳しくみている。(丹羽)
▶ どのようなチェックをしているか、矢作川にも参考になることが多いと思う。(蔵治)
- 皆さん忙しいので、現時点では未定ということで、日程調整については、また協議したい。(蔵治)

《今年度の水循環に関する計画とモデル調査実施団体募集のお知らせ》

- あくまで流域圏懇談会は河川整備計画に基づいて設置されたのであって、水循環基本法に基づいているのではない。しかし、概ね共通した活動を行っているので、団体名が重なっていても問題はないと思う。(蔵治)
▶ 現在の流域圏懇談会は、意見交換とか情報共有にウエイトが置かれている。この活動の目的は水循環計画を作ることにある。次年度以降も継続する取組みであるため、忘れないようにしてほしい。(大森)
- 水循環の先進地である岡崎市からは、前向に検討しているとの返事をもらっている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- 山・川・海の合同で集まる全体会議等で、全員参加による「流域ものさし」の製作を行ってはどうか。(今村)
▶ 確かにそれは良いアイデアだと思う。全員が会する唯一の機会を有意義なものに変える必要がある。(蔵治)
- もし、岡崎市で豊田市みだいな水道料金上乗せの基金が成立すれば、積木みだいなものを岡崎市全域に供給されるべきだ。お金が下流から上流に動き、物が上流から下流に動くというのは自然なことだと思う。(蔵治)
▶ 山北町の森づくり(上記)もここも同じ。木育のために使われる自然な仕組みができるといい。(丹羽)

◆話題提供・・・矢作川源流の山＝大川入山山頂付近のササ原の分布特性について

第34回山部会WGでは、矢作川源流に位置する大川入山(おおかわいりやま)の特異なササ原の分布が話題となった。そのため、事務局補佐のアジア航測(株)が経年的な空中写真の比較および地元住民へのヒアリングを通して、情報の整理を行ったものである。

長野県下伊那郡平谷村に位置する大川入山は、長野・愛知県境の茶臼山(ちゅうすずま)と並び、矢作川源流の山である。また、標高が1,908mと矢作川流域内で唯一亜高山帯植生を有しており、山頂部はダケカンバやシラビソ等の針広混交林となっている。しかし、実際には広大なササ原(シナノザサ)が尾根に対して非対称(西側に偏った)に分布していた。平谷村住民へのヒアリングの結果、少なくとも昭和20年ごろまでに、村内の広い範囲が皆伐されたことがわかった。戦後70年を経過しても、人為的かく乱の傷が癒えていない状況である。特に尾根部では、強烈な西風、土壌の薄さ、シナノザサの優占といった物理的要因が加わり、植生遷移が進んでいない。



大川入山山頂付近の植生

今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、10月7日(金)~8日(土)岡崎市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.5



発行日：平成 28 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 36 回山部会WGを開催しました！

10月7日(金)～8日(土)に第36回山部会WGが岡崎市にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 10 月 7 日（金）～8 日（土）
場所：岡崎市農村環境改善センター研修室ほか
参加者：24 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

山部会では、2013 年度から 2015 年度にかけて、持続可能な流域圏につながる活動をしている団体を対象に取材して、「山村再生担い手づくり事例集」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを発行しました。今後は、3 ヶ年で取材した 64 団体を対象に“山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクト”を展開することになりました。

【2016～2018 年度の目標】

取材を行った 64 団体は、その後さまざまな形で進化しています。その進化について記録し、共有することで、取材者・取材先・流域圏懇談会・読者のネットワークの拡大と深化を目指します。

【2016 年度の活動】

2013 年度に訪問した 21 団体を再訪し、取材を行い、レポートにまとめます。11 月を目処に取材を行い、来年 1 月までにレポートをまとめ、2 月～3 月に山村再生担い手づくり事例集の交流会を予定しています。

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

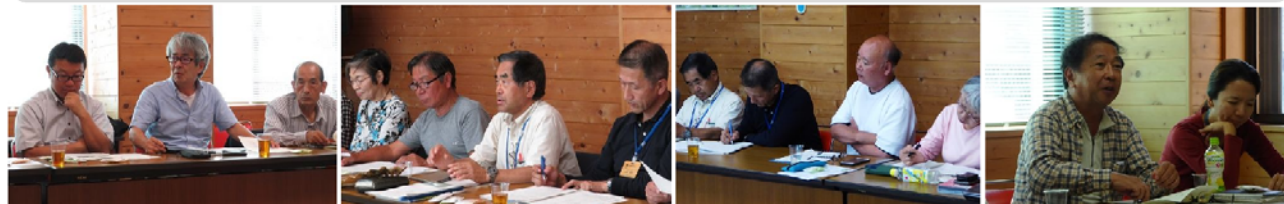
以下の 3 つの企画について、紹介と意見交換を行いました。

- ① 2017 年の「矢作川感謝祭（仮称）」における実行委員会への参加（11 月より始動予定）
⇒流域の林業家、素人山主、森林ボランティアと一緒に“森の恵み”に感謝し、山仕事を誇れるお祭りを目指します。
- ② 「矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）」の実施（12 月より始動予定）
⇒“中堅離脱”の深刻化、巨大製材所、大森林組合、零細自治体、自伐林家、素人山主の共存を主なテーマとします。
- ③ 「あいちモリコロ基金」への応募
⇒“山の恵み”という言葉をもとに復権させるため、額田の森林を取り巻く活動をモデル地区として申請する予定です。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

以下の 5 つの項目について、森づくりガイドラインに関する情報共有と意見交換を行いました。

- ①矢作川流域圏における近年の間伐面積の実績
⇒2010 年をピークに岡崎市と豊田市で減少傾向が続いており、岐阜県域と長野県域でも近年大きく減少しています。
- ②森づくりガイドラインのアウトライン
⇒中核製材工場の稼働、行政レベル（豊田市・岡崎市）の森づくりや水循環の構想、皆伐一斉造林や間伐（伐り置き間伐、搬出間伐）の考え方、人工林・針広混交林・二次林の配分などについて示すことにしたいと思えます。
- ③近自然森林管理において推奨される水道水源の質と量に関する指標と森林管理
⇒ヨーロッパでは、水道水源林の森林施業に対し、詳細な配慮事項を明記しています。このような考え方は日本には少なく、流域圏にも応用できる部分がありそうです。
- ④豊田市における 100 年の森づくり構想の見直し
⇒森林の立地条件による伐採規制、再造林に関するルール設定など、全国各地の事例収集を行っている状況です。
- ⑤岡崎市水循環推進協議会 緑のダム部会の進捗状況報告
⇒岡崎市では、水源涵養という面から適切な森林の管理手法を考えています。水循環推進協議会という付属機関のもと、“緑のダム部会”という諮問機関を設置し、今年度末に答申を受けることになっています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 宿泊を交えた年度末の交流会を根羽で行いたいと考えている。根羽村森林組合の今村さんに候補日を絞っていただき、皆さんと日程調整を行いたい。(洲崎)
- ・ 山村再生担い手づくり事例集の取材先も、案内が欲しいという方がいたら、登録していただきたい。(洲崎)
 - ▶ メールアドレスをいただければ、登録する。(事務局)
- ・ 9月に乙川河川敷で、上下流の人・ものの交流を目的とした「おとがワ！ンダーランド 2016」が開催された。矢作川本川も支川に負けられないようにイベントを行いたい。(洲崎)
 - ▶ 岡崎製材さんに岡崎森林組合の間伐材を提供した。近年、地域材を使用する考えが芽生えている。(荻野)

●矢作川流域山村ミーティングについて

- ・ 岡崎森林組合でも、志が高いのは転職・Iターン者である。今回のヒヤリングでは、我々のような関係者が聞けない踏み込んだ意見交換を期待している。もちろん参画もしたい。(眞木)
- ・ 私がこの世界に入った頃は、環境や水源を意識する価値観はなかった。今では、それらを普通に考える志の高い若者が増えた。一方で、町の活性化については関心がなく、ヒヤリングの際には嫌がられる可能性がある。(荻野)
- ・ 今の林業は、新たな3K(カッコいい・クリエイティブ、希望がある)を目指すことが大切である(眞木)
- ・ 額田木の駅は、量的にも質的にも日本をリードしている。そこで次回の「木の駅サミット」を額田で行いたいと考えている。(丹羽)
- ・ 中堅の離脱という問題には、子育てが関係していると感じる。林業にも上司や部下の関係など、一般企業と同様の問題を抱えている。上司は「無駄だ」、「そんな仕事ではない」という発言は避けるべきである。(山本薫久)
- ・ 岡崎市では、間伐材 6,000 円/t が相場であるが、他の地域ではどうか。(山本恵一)
 - ▶ 全国的には、6,000 円/t あるいは 6,000~6,500 円/m³ など、そのラインを目標としている。(丹羽)
- ・ 木質バイオマスの発電所やチップ業者に直接売ったほうが高い場合があるが、不思議と地域通貨の枠の中で収まっている。お金だけで動かない人々が多いことに驚いた。(丹羽)
- ・ 不安に感じるのは、10%しか上流の木材を使用していなくても地元産として売れる業界の常識である。(蔵治)
 - ▶ 認証制度を行政と地元企業が一体となって構築する必要がある。(岡根)
 - ▶ トレーサビリティの確保ということか。この部分が岡崎市には不足していると考えられる。この懇談会では、長野県根羽村の最新事例が聞けるので、一層の情報共有や意見交換が期待される。(蔵治)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《岡崎市水循環協議会 緑のダム部会の進捗状況報告》

- ・ 岡崎市の上水道の供給確保という課題について、具体的な数値目標は設定されているのか。(浅田)
 - ▶ 現状では明確な数値が得られないため、具体的な数値目標は示していない。(蜂須賀)
 - ▶ 現状の消費量はわかると思うので、達成意欲を高めるために、数値目標を掲げるべきだ。(浅田)
- ・ 里山の保全では、なぜ青木川水系である岩屋観音あたりが選定されたのか。(沖)
 - ▶ 地元からの要望である。行政からの指定はできないので、あくまで地元の意向に従った。(蜂須賀)
 - ▶ 岡崎市の水循環は乙川を対象としており、本来は乙川水系を選定すべきだ。(沖)
- ・ 合併前の額田町の時代は、水道使用量 1t につき 1 円を森林整備にあてられていた。しかし、合併と同時に打ち切られてしまった。額田林業クラブとして常に制度の復活をお願いしてきたが、なぜ進まないのか。(山本恵一)
 - ▶ 山の必要性について、街の人々が理解できていないのが現状だ。その中で、制度を再会しても特定の業種について補助することに理解が得られない。緑のダム部会の答申をうけて、新たな一歩を踏み出す予定だ。(柴田)
- ・ 現状では針広混交林にする技術は確立されていない。これは一つの仮説であるが、小面積の皆伐で針広混交林への転換ができれば、補助金がなくても木材生産が可能になるかも知れない。(蔵治)

◆岡崎市におけるフィールドワーク

木づかい推進の一環として、岡崎市内のウッドデザインパーク(ニッカホーム株式会社)と間伐材利用コンクール作品展示会(岡崎市林務課)を視察しました。ウッドデザインパークでは、岡崎産材を利用したツリーハウスやウッドタイルの活用事例を学びました。また、間伐材利用コンクールでは、大人も驚く中学生のアイデアや木工体験コーナーで楽しむ親子を見ながら、木育の大切さを学びました。



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WGは、11月25日(金)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol.6



発行日：平成 28 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 37 回山部会WGを開催しました！

11 月 25 日(金)に第 37 回山部会WGが根羽村にて開催されました。今回の WG では、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と今後の予定を話し合いました。

日時：平成 28 年 11 月 25 日(金)
場所：根羽村老人福祉センター「しゃくなげ」
参加者：12 名(事務局含む)



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、「山村再生担い手づくり事例集「その後いかがお過ごしですか？」プロジェクトの 1 年目として、平成 25 年度に取材を行った団体を再訪し、レポートを作成しています。

①今後のスケジュール

- 年内・・・取材の完了
- 1 月・・・調査者によるレポートの作成～提出、
- 2 月～3 月・・・レポートの校正およびとりまとめ
- 4 月・・・山村再生担い手づくり事例集交流会

②交流会の日程調整

開催場所は、前回までの WG で根羽村に決定しています。本日は開催日と宿泊先を決めます。



2. 矢作川流域山村ミーティングについて

矢作川流域山村ミーティングでは、以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①流域に関わるお祭りの実施に向けて

- ・豊田市の矢作川感謝祭について、実行委員会を 12 月より始動する予定です。
- ・4 月の事例集交流会は、山村ミーティングの面からも定着するお祭りにしたいと考えています。

②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに向けて

12 月以降、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合を訪問する予定です。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

矢作川流域森づくりガイドラインでは、以下の 4 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①岡崎市で実施された「水源林を考える会」の活動報告

⇒10/23 と 11/2 の 2 日間、岡崎市の水源かん養施策について、講演と意見交換が行われました。

②桂川流域フォーラムのお知らせ

⇒内閣官房水循環政策本部が今年度の事業として、先進的な流域マネジメントに関するモデル調査を事務局と協力する団体を募集した結果、3 つの自治体が採択され、その 1 つが岡崎市に決まりました。

③国の水循環施策に関する最新情報

⇒我が国では、堆砂率が 40%以上のダムが 4 割ぐらいあり、ダム管理費の 40%以上が浚渫費となっています。矢作ダムも同様の問題を抱えており、森林の適正な管理が急務となっています。

④神奈川県山北町の勉強会に向けて

我が国の先進事例を学ぶため、1 月 27 日の地域部会の後に移動し、28 日に神奈川県山北町の森林組合等を訪問します。

4. 矢作川流域木づかいガイドラインについて

矢作川流域木づかいガイドラインでは、主に 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①全体会議での「流域ものさし」試作の提案

⇒流域連携テーマの木づかいの一環として、全体会議において「流域ものさし」の試作を行いたいと思います。

②豊田市の空間デザインに関するイベント紹介(来年 11 月実施予定)

⇒現在、豊田市駅前に人が集うための空間の活用方法を検討しています。皆さんのアイデアを募集します。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・ 21 団体への取材は、おおよそ完了している。現在、取材をもとにレポートを執筆している状況だ。(洲崎)
- ・ 交流会へのお誘いは、山村再生担い手づくり事例集の取材先のすべてを対象にするのか。(山本)
 - ▶ すべてを対象とします。そのため、今日日程を固めて、メーリングリストなどで伝えたいと思う。(洲崎)
- ・ 3 月は忙しい。年度をまたいで実施する方が良いのではないか。(蔵治)
 - ▶ 積雪が避けられる 4 月にしたい。それであれば、参加者も増えるはずだ。(洲崎)
- ・ 4 月中旬の土日がい。場所は、グリーンハウス森沢でどうか。(山本、丹羽)
 - ▶ それでは、開催日を 4 月 15 日(土)～16 日(日)、宿泊場所をグリーンハウス森沢としたい。(洲崎)

●矢作川流域山村ミーティングについて

《森林組合の作業班を対象にしたヒアリングに対する意見交換》

- ・ ヒアリングの対象は、根羽村森林組合、恵南森林組合、豊田森林組合、岡崎森林組合の 4 団体か。(浅田)
 - ▶ 4 団体を対象とするが、中原農林などにも声を掛けてみたい。(丹羽)
- ・ 周りには既に作業班を辞めた人もいる。辞めた原因についても可能な限り聞いてみたいと思う。(丹羽)
 - ▶ それは気になるところだ。我々が聞けない部分を第三者の立場で聞いていただきたい。(眞木)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《岡崎市で実施された「水源林を考える会」の活動報告に対する意見交換》

- ・ 眞木さんが「森林組合員をいかに失望させないか」と発言されているが、根羽村でも同じことがいえる。(今村)
 - ▶ これはまさに私が取材して確認したいこと。これまでの森林組合は若者の就業定着が課題であった。あれから 10 年が経ち、今では中堅離脱が大きな問題となっている。(丹羽)
- ・ 根羽村森林組合でも中堅離脱は問題になりつつある。もともと林業を志す者は、自由思考が強いので、消防団への加入や地域活動への参加に意欲的ではない。そのため、技能を極めるために村を出ていく人もいる。(今村)
 - ▶ 岡崎森林組合では、8 割程が街から通っている状態で、サラリーマンのような就業形態となっている。(眞木)

《国の水循環施策に関する最新情報に対する意見交換》

- ・ 森で砂の流出を止めるだけで、いかに大きな価値があるかということ表現すべきだ。(丹羽)
 - ▶ 試算すると 1 年で 4 億円かかっていることになる。それだけに、森林の管理が重要といえる。(蔵治)

《神奈川県山北町の勉強会に対する意見交換》

- ・ 流域の活動という面では、神奈川県や山梨県が全国で一番進んでいる感じを受ける。(今村)
 - ▶ 特に森づくりという観点では、昔は矢作川流域が国をリードしていたが、今では神奈川県に先を越された感がある。しかし、岡崎市では水源かん養施策の視点で、豊田市では森林施策の視点で新たな取り組みが進められている。このタイミングで流域圏の統一されたガイドラインを作成したいと考えている。(蔵治)
- ・ 林業だけの問題にとどまらず、山から砂が流れるという矢作川の総合土砂管理の問題にも関わるため、川部会や海部会にも声をかけたい。(大森)
 - ▶ これは流域全体の勉強会となり得ると思うので、流域圏懇談会すべてのメンバーに声を掛けたい。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

《全体会議での「流域ものさし」試作の提案に対する意見》

- ・ 是非実施したい。それから、場内の空いたスペースに、根羽村森林組合のどこでもシリーズ(動く木のおもちゃなど)を並べると、和やかな雰囲気できると思う。(蔵治、洲崎)

《豊田市の空間デザインに関するイベント紹介に対する意見交換》

- ・ 豊田市では、ヒートアイランド現象が大きな問題となっている。街の真ん中に緑があると、こんなに違うんだということを感じられるスペースが欲しい。(洲崎)
 - ▶ 原木を持ち込んで、そこでワークショップをするのも面白い。(山本)
- ・ 市民に賛同が得られれば、定着すると思うので、是非成功させたい。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会 WG は、12 月 16 日(金)～17 日(土) 豊田市にて開催します。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 宇野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol. 7



発行日：平成 29 年 1 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 38 回山部会WGを開催しました！

12月16日(金)～17(土)に第38回山部会WGが豊田市足助地区にて開催されました。今回のWGでは、山村再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域圏森づくりガイドライン、矢作川流域圏木づかいガイドラインに関して、現在の進捗状況と地域部会、全体会議に向けた目標を話し合いました。

日時：平成 28 年 12 月 16 日（金）～17 日（土）
場所：豊田森林組合庁舎、足助きこり塾フィールド、豊田市敷島農村環境改善センター ほか
参加者：17 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

現在、平成 25 年度に取材を行った団体を再訪し、レポートを作成しています。

①今後のスケジュール

- 1 月～⇒取材レポートの校正、2 月 21 日⇒再取材集の完成
- 2 月 24 日⇒全体会議で報告、4 月中旬⇒山村再生担い手づくり事例集交流会

②山村再生担い手づくり事例集交流会の内容の提案と意見交換

- 日程：平成 29 年 4 月 15 日（土）～16 日（日）
- 場所：根羽村老人福祉センターしゃくなげ（交流会）、グリーンハウス森沢（懇親会・宿泊）
- 内容：取材先の団体の PR タイム（岡森フォレストアーツのライブ、天下杉の上演会など）

2. 矢作川流域山村ミーティングについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①流域に関わるお祭りの実施について

矢作川感謝祭について、9 月第 2 土曜、日曜に行いたいと考えています。そのために、1 月から毎月第 4 木曜日に実行委員会を定期開催することになりました。

②流域の森林組合の作業班を対象にしたヒアリングについて

現在、おいでん・さんそんセンターでは、半農半林でプロを目指す人を支援しており、本日取材を行いました。今後は既に日程が決定している森林組合への取材を行います。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①「スイスの近自然森づくり」の報告（豊田市森林課 鈴木春彦氏）

11 月に職員研修の一環としてドイツとスイスにおける視察を行いました。今回は、両国の森林管理の仕組みについて、人材育成に焦点を絞ってご報告いただきました。

②神奈川県山北町における森林とダムと土砂の勉強会について

神奈川県の森林環境税は、年間 39 億円と国内で最大規模を誇ります。その予算の大部分が山北町で活用されており、その実態について 1 月 28 日（土）に勉強会を行います。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

以下の 2 つの議題について、情報共有と意見交換を行いました。

①森林資源のフル活用に向けた、スギの用途を広げるビジネスアイデアソンについて

日本の森林の問題を解決するため、スギの用途を拡大する手法の検討を行いました。

②木材の水辺活用の提案について

流域連携テーマである「木づかい」について、水辺の木の活用事例が紹介されました。

③田舎の先生制度について

農村の持つ技術・技能を活かしながら都会のニーズに応える方法が紹介されました。

5. 足助・旭地区におけるフィールドワーク

フィールドワークとして、以下の 2 箇所の視察を行いました。

①足助きこり塾

⇒人工林、雑木林、大工塾による製材所やピザ釜を見学しました。

②あさひ森の健康診断報告会

⇒旭地区の森の健康診断報告会へ出席しました。



足助きこり塾の視察風景



報告会の実施状況

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手づくり事例集について

- ・参加者全員が宿泊するイメージで良いか。(浅田)
 - ▶ 日帰りでも構いません。15日と16日が土日となります。(洲崎)
- ・交流会は事例集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ全てが対象となるのか。その場合、Ⅰは再取材で伝えているが、Ⅱ・Ⅲはどのようにお知らせするのか(沖)
 - ▶ Ⅰ・Ⅱ・Ⅲすべてが対象となる。事例集のメーリングリストを立ち上げる時に、現在わかっている全取材者のアドレスを登録している。当方から、メーリングリストを使ってアナウンスする。(洲崎)

●山村ミーティングについて

《地域に関わるお祭りの実施について》

- ・矢作川感謝祭はこれまで川のメンバーを中心に行われてきたが、来年からは山のメンバーも共催として加わることになった。山側の体制としては矢作川森林ボランティア協議会など、色々な関係団体に呼びかけを行う予定である。二年越し、三年越しのお祭りが、ようやく土俵に上がる権利を得た。(丹羽)
- ・山村再生担い手づくり事例集で培った人間関係をフルに活かせると有意義だ。(山本)
 - ▶ 4月に行う事例集交流会で、矢作川感謝祭の呼びかけを行えるとよい。(丹羽)

《森林組合作業班を対象としたヒアリングについて》

- ・本日は豊田市森林組合常務の青山さんにご出席いただいている。山林の作業員の現状を教えてください。(蔵治)
 - ▶ 以前100人いた作業員は、現在85人まで減少した。高齢の方の退職に伴い、年間3名ほど補充しなければ現状維持ができない。新規募集においては宿舎も用意したが、なかなか定着しないのが現状である。(青山)
- ・現在、森林組合作業班の中堅離脱が問題となっているが、豊田森林組合における主な要因は何か。(丹羽)
 - ▶ 給与などの待遇のミスマッチ、人間関係のミスマッチ、想像していた仕事とのミスマッチの3点だ。(青山)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《「スイスの近自然森づくり」の報告》

- ・ドイツの森林面積は日本の半分ほどだが、生産量は2倍に相当する。それは、フォレスターや現場作業員の手際が良いことに加え、機械と人の手を絶妙に使い分けている点であると感じた。(鈴木、河合)
- ・日本の農業高校の教科書では、未だに原木市場を経由して木材が流れるという古い仕組みが示されている。(蔵治)
 - ▶ スイスやドイツでは、将来作業員になりたい人を対象に、日本の農業高校には踏み込めないような高性能な林業機械を実習する場が設けられている。スイスの例では、週4日働いて1日学校で学ぶスタイルがとられており、毎日の仕事の振り返りを全て記録し、先生に確認してもらう合理的なシステムがとられている。(鈴木)
- ・基本的に補助金に頼らない点が、日本の林業と大きく異なると感じた。しかし、本当に成り立つのか。(浅田)
 - ▶ 日本の補助金と大きく異なるのは、人材の育成に使われる点と森林組合のような民間が行う森林施業のプランニングも行政が担う点である。(鈴木)
- ・人工林という概念があまりなく、主に天然林施業という考えなのか。(蔵治)
 - ▶ 確かにそうだが、スイスでは8割が天然更新で、2割が植栽である。その理由の一つに、スイスやドイツは天然更新しやすい物理的な条件がある。一方で、日本では単本相や低木が初期に優占するので、高木に達するまでに相当の時間がかかる。この点において、我が国での応用は難しいと感じた。(鈴木)

《神奈川県山北町における森林とダムと土砂の勉強会について》

- ・この勉強会は、海や川のメンバーにも募集するものであり、年内中でアナウンスしていただきたい。(蔵治)
- ・弊社は近年、神奈川県の水源林を担当する部署から、大量のスコリアの流出について、航空レーザ計測データを使って解析する業務を受託した。詳細については、勉強会で説明したい。(中田)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

《森林資源のフル活用に向けた、スギの用途を広げるビジネスアイデアソンについて》

- ・多くの街の人間が木に期待するのは、肌触りとか、ぬくもり等の官能機能であった。スギの特徴である「あたたかさ、やわらかさ、軽さ、香り」を十分活用できると考えられる。(今村)

《木材の水辺活用の提案について》

- ・矢作川の本流だと流れがあるため難しいが、ダム湖だと設置しやすいと感じた。(洲崎)
- ・木材は、コンクリートや鉄に比べてもろい印象を受けるが、見た目もいいし、結構丈夫なのではと思う。(浅田)

《田舎の先生制度について》

- ・この制度は、都会の人よりも田舎の人に抵抗があるから、進まなかったのだと思う。(蔵治)
 - ▶ 先生になって都会の人に認められれば、誇りが持てる。持続可能な田舎づくりに結び付く制度だ。(山本)

今後のスケジュール (予定)



1月27日(金)に岡崎市(ぬかた会館)にて第8回山の地域部会を開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、技官 守野

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijjnet.or.jp)までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

H28 山部会編 vol. 8



発行日：平成 29年 2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第8回山の地域部会を開催しました！

1月27日（金）に第8回山の地域部会が岡崎市にて開催されました。今回の地域部会では、平成28年度の山部会の活動報告、流域連携テーマの成果と取り組みを報告・確認するとともに、今後の山部会の活動計画について話し合いました。また、岡崎市と豊田市の森づくりに関する最新動向が周知され、出席者との積極的な意見交換が行われました。

日時：平成29年1月27日

場所：岡崎市「めかた会館」 2階2～3会議室

参加者：25名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 今年度の山部会の活動進捗報告

平成28年度は、山部会3ヶ年の活動テーマである①山村再生担い手づくり事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドラインの4つのテーマについて、主に以下の項目の情報共有と意見交換を行いました。

①山村再生担い手づくり事例集

事例集作成で構築された人間関係の維持とネットワーク化を図るため、『その後いかがお過ごしですか？プロジェクト』を始動（平成25年度に取材を行った21団体の再訪とレポートの作成）。

②山村ミーティング

- 流域の森林組合の現状を把握するため、現場作業員を対象とした100人ヒアリングの開始。
- 矢作川感謝祭を秋の流域全体の恒例行事にするための、実行委員会の立上げ。

③森づくりガイドライン

- 岡崎市における、水循環に関する新たな動きの周知。
- 豊田市の森林施策の一部見直し、海外の研修成果に関する報告・意見交換。
- 森づくりガイドラインの項目案に対する意見交換。

④木づかいガイドライン

- 木づかいガイドライン策定にむけた「さあ～しよう」という提案型の原稿作成に関する情報共有と他のテーマとの連携の模索。
- 木づかい推進の実績と今後の活動に対する意見交換。

2. 流域連携テーマの成果と取り組みについて

以下の流域連携テーマについて、各部会WGの中で行った実績が報告され、意見交換を行いました。

①こみ・流木：全国的な活動を行っている（一社）JEANなどとの連携、奥矢作森林フェスティバルで三河湾の生き物を紹介。

②土砂：総合土砂管理における給砂実験に関する勉強会の実施、流域の人・物の動きを可能にする広域リクリングロード構想の意見交換。

③木づかい：奥矢作森林フェスティバルへ木づかい推進として参加、流域圏の名刺となる「流域ものさし」の活用方法の検討。

3. 次年度の山部会の活動計画について

平成29年度は、流域圏懇談会の3サイクル目である「課題解決に向けた取組み実行（実証）」の2年目となります。今後も①山村再生担い手づくり事例集 ②山村ミーティング ③森づくりガイドライン ④木づかいガイドラインの4つのテーマで進めるうえで、次年度（次年度以降）の目標について意見交換を行いました。

4. 森づくりに関する情報提供

《岡崎市水循環推進協議会緑のダム部会の答申案について》

現在、岡崎市水循環推進協議会では、水量に関する重点施策の再構築に係る市長からの諮問に答えるため、「緑のダム部会」を設置し、協議を行っています。今回は、答申案についてご報告いただきました。また、国（内閣官房水循環対策本部）が募集するモデル実施団体に岡崎市が選定されたため、最新の動向に関して、ご紹介いただきました。

《豊田市森づくり構想等リニューアル方針の素案について》

現在、豊田市では100年の森づくり構想の見直しを2年がかりで行っており、今年はその1年目にあたります。リニューアル方針の素案についてご紹介いただきました。

《額田木の駅プロジェクトの状況報告》

額田木の駅プロジェクトは、昨年度より始まり、今年で2年目となります。今回は、以下に示す進捗状況をご報告いただきました。

- 昨年度は840t、今年度は現時点で1,100tを出荷した。
- 地域通貨は、1,000万円分動いた。
- 取引先は製紙用チップ業者に加え、薪としての流通が始まった。

《特集 内湾から都市のビジョンを考える 三河湾再生と森林管理》

都市計画学会の学会誌に投稿された矢作川流域に係わる内容をご紹介いただきました。矢作川流域圏の現状と矢作川流域圏の取組みが示されており、特に土砂問題がクローズアップされています。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●今年度の山部会の活動進捗報告

- ・山村ミーティングでの森林組作業班に対してのヒアリングは、次年度に続く内容であり、今年度開始したというのが実績である。(丹羽)
- ・森づくりガイドラインに関しては、これまでの内容が概ね網羅されていると思われる。(蔵治)
- ・木づかいガイドラインに関して、木づかいライブ・スギダラキャラバンの活動一覧や写真を送るので、掲載をお願いしたい。(今村)
- ・上記以外に詳細な修正点がある場合には、2月初旬までに事務局にメールにて伝えること。(蔵治)

●流域連携テーマの成果と取組みについて

- ・広域サイクリングロードに関しては、源流から河口まで自転車で走れるというイメージでよいか。(蔵治)
▶ 自転車でも、徒歩でもよい。その道を通りながら、ゴミを見つけたら拾うというイメージだ。(大森)
- ・天竜川では、整備によって生じた竹を使って、いかだの材料やメンマなどの食材としている。来年のWGでは、代表者をお呼びし、竹の活用事例について説明してもらいたいと考えている。(今村)

●次年度の山部会の活動計画について

- ・来年度も今年度と同様に月1回のペースでWGを開催するという目標を記載していただきたい。(蔵治)

《山村再生担い手づくり事例集》

- ・交流会に関して、理想は参加団体による別のイベントへの展開である。もし、可能であれば、プレーストリーミングを行ってはどうか。(今村)
▶ 事例集交流会までにWGがないが、事例集交流会を裏のあるイベントとするため、どこかでプレーストリーミングを行いたい。(洲崎)
▶ 全体会議の後に山のメンバーだけ残るのはどうか。場所の確保を事務局にお願いしたい。(山本)

《山村ミーティング》

- ・矢作川感謝祭について、今までの感謝祭は豊田市だけのものであった。次からは流域の山、川、里、海が集う流域の祭りとすることを実行委員会でも確認し合い、豊田市にも働きかける予定である。(丹羽)

《森づくりガイドライン》

- ・茶臼山の北側の森林について、信州大学との連携で、誰でも学べる研修林にしたいという計画が出ている。(今村)
- ・水循環基本法に含まれる森林の水源かん養機能について、事例とガイドラインを作れないかという議論を内閣府水循環推進会議と林野庁に働きかけようとしている。矢作川流域の独自性を入れたガイドラインを国レベルのルールにしていきたいと考えている。(蔵治)

《木づかいガイドライン》

- ・根羽村では、「田舎の親戚制度」を作ろうとしている。これにより、田舎と都市の人がお金を出し合って、木づかいすることで、里山を魅力的な場所に変えることができる。一方で、都市の人は、生きるための技能(作物の栽培方法等)の習得ができる。木づかいガイドラインには、田舎の親戚制度についても示したいと考えている。(今村)

●森づくりに関する情報提供

《水循環推進協議会緑のダム部会の答申案について》

- ・森林に関する自治体同士の比較として、隣接する豊田市との比較も示してほしい。(浅田)
- ・「里山」を使用する際は、定義を明確に示してほしい。(洲崎)
- ・森の健康診断を岡崎で行ってはどうか。特に、額田は日本一の力を持っているので可能だと思う。(丹羽)
- ・河川の水には、表流水と伏流水があるが、湧水である伏流水の流量に着目してはどうか。(井上)
- ・モニタリング方法の確立は画期的だ。市民に簡単にできるモニタリング方法をPRすべきだ。(今村)

《額田木の駅プロジェクトの状況報告》

- ・額田の人口に対して月100tというのは、たぶん日本一だ。(丹羽)
- ・名古屋のリフォーム会社がウッドタイルを開発し、全国に売り出した。額田の地元材を高く買い取れるような仕組み作りを目指しており、大いに期待している。(唐澤)



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。



平成 29 年度の山部会の活動計画

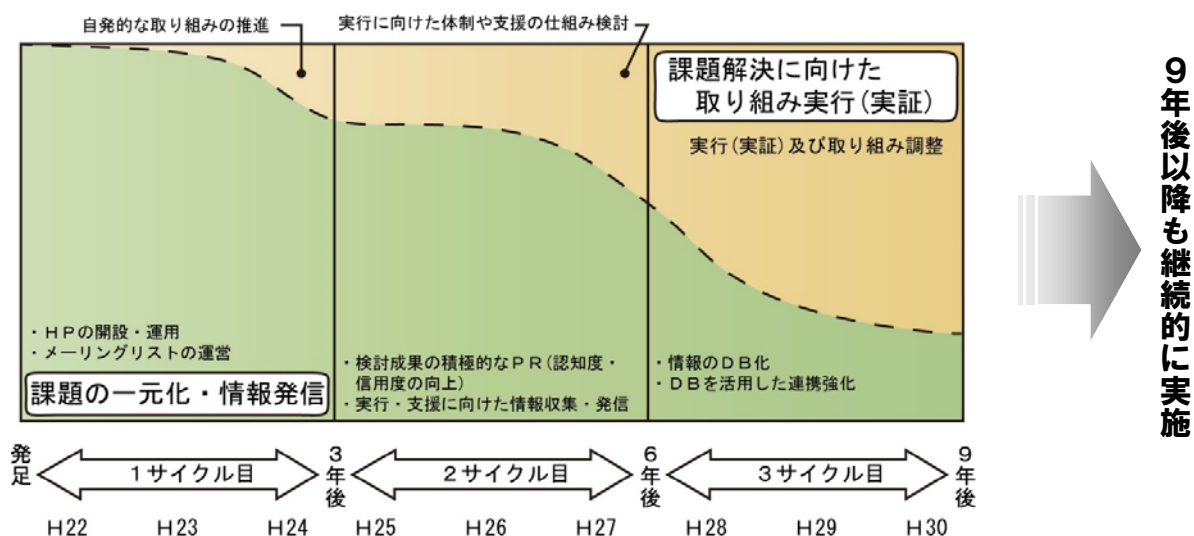
1. 懇談会の活動経緯と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 今年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 部会の3ヶ年の目標（平成 28 年度～平成 30 年度）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むことにした。

昨年度までの活動に対する課題や意見から、今年度以降の3ヶ年の目標（第5回全体会議承認事項）を以下に示す。

- WGの中で山村再生担い手づくり事例集について、よりPR力のあるものにする
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等とWGの中で山村再生担い手づくり事例集によって築かれた人間関係を連携させて、流域が関わるイベントを実施する
- WGの中で森づくりガイドラインについて、矢作川や水源かん養機能に配慮した森づくりの理念と具体的な方策を発信する
- WGの中で木づかいガイドラインの策定を行い、流域における水平展開を山部会構成メンバーで実行する

3. テーマ別の来年度の活動計画

来年度も、地域持ち回りのWGにおいて、以下の4つのテーマの情報共有と意見交換を行う。WGの開催は月1回の実施を目標とし、必要に応じて勉強会を開催する。

3.1 山村再生担い手づくり事例集

- 事例集の取材者、取材先、流域圏懇談会、読者のネットワークをいっそう広げ、深めることを目指した事例集交流会を4月に実施する。
- 事例集Ⅱを対象にした「その後いかがお過ごしですか？プロジェクト」を実施する。
- 山村ミーティングや木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

3.2 山村ミーティング

- 森林組合作業班を対象とした100人ヒアリングを進める。
- 矢作川感謝祭(仮称)を流域全体のまつりと位置づけ、実施できるよう実行委員のメンバーとして企画していく。
- 山村再生担い手づくり事例集や木づかいガイドライン等、他のテーマとの連携を深める。

3.3 森づくりガイドライン

- 岡崎市、豊田市における森づくりの動きについて、WGとして把握し、情報共有と意見交換を行う。
- 岡崎市と豊田市で、共通理解となった水源かん養機能や矢作川に配慮した森づくりの理念と具体的な方策をとりまとめる。
- 水循環の基本法に基づく健全な水循環の維持・回復を目標として、水の貯留・かん養機能の維持向上や土砂の流出抑制を図るため、矢作川流域の独自性を加味した森づくりのガイドライン作成に取り組む。

3.4 木づかいガイドライン

- 矢作川流域ものさしと私の流域物語を使って、ひとり一人が流域の魅力を発信する。
- 山部会どこでもシリーズを使った旬の時期の旬のお祭りを開催する。
- 流域の魅力を創造する市民創造、労働参加型プロジェクトに取り組む。
- 市民労働参加型プレイスメイキングプロジェクトを考える。

4. 流域連携テーマの活動計画

流域連携テーマについては、昨年度の第5回全体会議以降「ごみ・流木」、「土砂」、「木づかい」に関する活動を山・川・海の各WGにおいて実施している。今後の活動計画については、市民会議を早急に開催し、流域間交流イベントの開催等の取組みを含めて意見交換を行う。